mobile版には新イベント情報が随時更新中

右記のQRコードからアクセス下さい。

11 NOV

ストレスと睡眠の心理学：ストレス緩和と快眠のための基礎知識（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 11月26日(土) 15:00▶16:30
講　師　佐藤　俊彦（東北文化学園大学）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 60名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

東日本大震災から学ぶ、地域における減災の工夫（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 11月26日(土) 17:00▶18:30
講　師　松本　秀明（東北学院大学）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 80名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

12 DEC

まちなか美術講座 第23回　「フェルメールの愉(たの)しみ」 12月 3日(土) 13:00▶14:30
講　師　有川　幾夫（宮城県美術館副館長）　無料　申込不要
場所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 60名
主催者　宮城県美術館・東北工業大学　問合先 TEL 022-221-2111
URL　http://www.pref.miyagi.jp/bijyutu/mmoa/ja/exhibition/20111027-s01-01.html

かまぼこの健康機能性（全3回）（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 12月 3日(土)～ 13:00▶14:30
講　師　小嶋　文博（仙台白百合女子大学）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 50名
主催者　学都仙台コンソーシアム・仙台白百合女子大学　問合先 TEL 022-374-4475
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

館長講座「古代みやぎの道路と神社」（6） 12月 3日(土) 13:30▶15:00
講　師　真山　悟（東北歴史博物館副館長）　無料　申込不要
場所　東北歴史博物館　3階講堂　定員 300名
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/event/event_kancho23.html

戦争の記憶・戦争の記録（全6回）（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 12月 3日(土)～ 15:00▶18:30
講　師　原田　雅樹（仙台白百合女子大学）他　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 50名
主催者　学都仙台コンソーシアム・仙台白百合女子大学　問合先 TEL 022-374-4475
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

ひらめき☆ときめきサイエンス われら地球人：太陽系ツアー 2011 12月 3日(土) 15:00▶19:00
講　師　高田　淑子（宮城教育大学教育学部教授）　無料　要申込
場所　宮城教育大学　理科学生実験棟　2階地学実験室　定員 20名(対象：小学5、6年生)
主催者　宮城教育大学　問合先 TEL 022-214-3931
URL　http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht23000/ht23019.pdf

「ジェンダー論講座」(6)　人身売買とジェンダー　～女性・女児への性的搾取と差別の構造 12月10日(土) 13:30▶15:30
講　師　中村　文子(東北大学国際高等研究教育機構法学研究科 GCOE 連携助教)　有料　要申込
場所　エル・ソーラ仙台　大研修室　定員 50名
主催者　(財) せんだい男女共同参画財団　問合先 TEL 022-268-8044
URL　http://www.sendai-l.jp

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第5期「公共図書館の祖　青柳文庫と青柳文蔵」 12月14日(水) 13:30▶15:00
講　師　早坂　信子（東北学院大学非常勤講師）　有料　要申込
場所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者　「国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先 TEL 022-234-3606
URL　http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

東北大学サイエンスカフェ　第75回：巨大地震に対する備え～高知能ダンパーが建物の揺れをコントロール！～ 12月16日(金) 18:00▶19:45
講　師　井上　範夫（東北大学大学院工学研究科教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

「文字・活字文化の日」企画展
第7回 文字・活字とのふれあいDay
入場無料
お問い合わせ
022-288-5555
sasaki@sasappa.co.jp
開催のお知らせ

笹氣出版印刷株式会社では毎年「文字・活字文化の日」にちなみ、皆様に広く文字・活字や印刷のことにふれていただけるイベントを開催しております。今年も下記日程で開催しますので、ぜひ奮ってご参加ください。

日程：2011年10月21日(金)・22日(土)
9:30～16:00
場所：笹氣出版印刷株式会社内

QRコードからアクセス！

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「伝統に学ぶ」
2012年1月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
(FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く)
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第14号／発行日2011年10月5日
企画・編集　笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社
まなびのめ 編集部　只野俊裕　佐藤曜　川又進　笹氣義幸　遠藤洋子　菅野保広　伊藤秀平　齋藤麻実　菅野耕平　三上志穂　オブザーバー：寺田征也(東北大学大学院)
協力　株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本　株式会社テイクワン
この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

FREE ¥0　ご自由にお持ち帰りください。

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

芸術

日常を意識して見ることが「美術」の第一歩

東北生活文化大学　家政学部　教授
(造形表現)
林　範親 先生

舞台創りは「究極のデザインワーク」

東北福祉大学　総合マネジメント学部　教授
(ユニバーサルデザイン・舞台創作)
三木　弘和 先生

〈行ってみよう！「学び」の場所へ〉
- これからの主な「学び」イベント39件掲載！
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅　『清貧の思想』(中野孝次)
- 読者の声

図書カード懸賞付クイズあります

季刊誌
第14号
2011.10

Web版は随時更新中！
まなびのめ　検索
http://www.manabinome.com

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は Web 版に掲載しております。ぜひご覧ください。

定期開催

トワイライトサロン「MA☆（マスター）土佐誠の宇宙が身近になる話」 毎週土曜日 17:00▶17:45
講　師　土佐　誠（仙台市天文台長）　無料　申込不要
場所　仙台市天文台　オープンスペース　他
主催者　仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL　http://www.sendai-astro.jp/

10 OCT

企画展「宮城の旧石器 ―後期旧石器から縄文草創期の遺跡―」 10月14日(金)～12月4日(日)
有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム　企画展示室
主催者　地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/

ミニ企画展「縄文人のなりわい～国史跡　里浜貝塚からのメッセージ」 10月14日(金)～12月18日(日)
有料　申込不要
場所　仙台市縄文の森広場
主催者　仙台市縄文の森広場　問合先 TEL 022-307-5665
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/jyoumon/guidance/kikaku/

食の安全・兼業農家・エコツーリズム・地域づくり（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 10月15日(土) 13:00▶14:30
講　師　千葉　昭彦（東北学院大学）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 80名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

「もしも君が杜の都で天文学者になったら。。。」一般講演「ビッグバン以前を観る」 10月16日(日) 14:00▶14:40
講　師　服部　誠（東北大学大学院理学研究科准教授）　無料　申込不要
場所　仙台市天文台
主催者　仙台市天文台プラネタリウム　問合先 TEL 022-391-1300
URL　http://www.sendai-astro.jp/

[産学連携公開講座] 再生可能エネルギーとしての地熱発電の現状と将来（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座） 10月22日(土) 15:00▶16:30
講　師　梶原　竜哉（東北文化学園大学）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 60名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

東北大学サイエンスカフェ　第73回：国際宇宙ステーション「きぼう」における小さな宇宙飛行士　線虫！ 10月28日(金) 18:00▶19:45
講　師　東谷　篤志（東北大学大学院生命科学研究科教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

性と人権を考える 10月28日(金) 18:00▶20:00
コーディネーター　浅野　富美枝（宮城学院女子大学教授）　有料　要申込
場所　宮城県公文書館　3階　定員 20名
主催者　財団法人みやぎ婦人会館　問合先 TEL 022-299-4530
備考　月1回開催（以下 11/25、12/16）

東北労災病院第7回市民講座「腰痛のはなし」 10月29日(土) 13:00▶14:00
講　師　松本　不二夫（東北労災病院脊椎外科部長）　無料　申込不要
場所　東北労災病院　1階ロビー
主催者　東北労災病院　問合先 TEL 022-275-1467
URL　http://www.tohokuh.rofuku.go.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

やってきました「芸術の秋」。「まなびのめ」今年の秋は「芸術」に挑戦です。
「芸術・美術」といえば、まず東北生活文化大学さん、中でも「生活美術学科」を訪問すべき。
というわけで、教育・研究活動のみならず自ら作家として創作活動を続けていらっしゃる学科長・林範親先生に、
市民にとっての「芸術・美術」の見方、ふれあい方についてじっくりとお話をうかがいました。

日常を意識して見ることが「美術」の第一歩

なぜ木で実物大の「キヨスク」を作るのか

私は大学で美術を教えていますが、自分も作家として、おもに木を材料とした表現に取り組んでいます。今年１月に仙台市内で行った個展では、自転車、郵便ポスト、フェンスやロードコーンを組み合わせた道路工事現場などを、木材でリアルに再現した作品を発表しました。採寸に基づくほぼ実物大のサイズです。

他にもコインロッカーや自動販売機、ガスメーターなど、さまざまなものを木で作ってきました。電話ボックスをまるごと、電話機の細部に至るまで再現したこともあります。15 年前に駅のキヨスクを、新聞やガムなど商品まで全て作ったときは、丸２年間かかりました。この作品は今は愛媛県今治市の美術館「ところミュージアム大三島」に常設展示されています。最近は個展にむけ、よくある雑草の葉の１枚１枚を、実物がそうであるようにその特徴を削り出し、茎と組み合わせ制作中です。

なぜありふれた物や日常的な風景を、ここまで手間をかけて木で再現するのか。もし私の作品をご覧になった方が、驚き、そうした疑問をお持ちになったとすれば、そのことで私の制作意図の一部は実現したと言うことができます。

もちろん、私は見る人を驚かせたり不思議がらせたりするためだけに作品を作っているわけではありません。ご覧になった方の多くは、自転車のスポークってこんなに複雑に組んであったのか、とか、工事現場のロードコーンってこんなに大きかったかな、などと、自然にご自分の記憶や感覚を呼び覚まそうとします。すると作品を通じて、それまで見逃していた物たちと見る人との間、作者である私と見る人との間、そして見る人と自分自身との間に、それまでになかったような活発な対話が始まるのです。私は、こうした人と物、人と人との新鮮なコミュニケーションも、また美術だと考えています。

そして私の作品の素材は、ほとんどが古材です。捨てられていた梱包用の木材をいただいたり、道端にすてられていた何かの破片を拾って来て集めたりしています。売り物にならない材木、風化した木材、古ぼけて塗装がはげているもの。そうした物たちに、私はしばしば強く惹き付けられます。それらにすぐれて個性的な美を見出し、自分の作品に使いたいと思うのです。

試しに河原で、ご自分の氣に入った石を探してみてください。形、大きさ、色、持ったときの重さや手触りなど、ひとつとして同じものはありません。その中から選んだ石を部屋に持ち帰り、時々眺めたり触ったりして楽しむことができれば、それはその人にとって“かけがえのない逸品”になるのです。

東北生活文化大学　家政学部 生活美術学科　教授
専攻＝造形表現（木工・デザイン基礎・立体）

林　範親 先生

《プロフィール》
（はやし・のりちか）1948 年千葉県生まれ。東京芸術大学卒業。東京芸術大学修士課程修了。芸術学修士。日本楽器製造株式会社勤務を経て、1978 年より三島学園女子大学（現・東北生活文化大学）に勤務。1994 年より現職。1999 年、生活美術学科学科長に就任。

日常を見過ごさない力が人生を豊かに

美術を、「誰もが美しいと感心するものを創作したり、それを鑑賞したりすること」だと考えている方もいらっしゃるでしょう。もちろんそれも美術です。しかし驚いたり、不思議に思ったり、日用品や捨てられている物に美しさを見出して、大切にしたりすることもまた美術なのです。

美術についてのこうした考え方は、今これをお読みの方が学校で習ったものとは違うと言うかもしれません。図画工作や美術の授業を、絵を実物そっくりに描いたり、彫刻刀が上手に使えるようになるための技法を学んだりすることだと思っている方も少なくないでしょう。しかしそうしたことも、自分自身が何を美しいと思い、何に興味を感じ、どんなものを創作したいと考えるかということとひとつながりになっています。そして美術では、これらの全てが大切にされなければならないのです。

ですから作るだけでなく、見たり選んだりすることも美術の第一歩といえるのではないでしょうか。毎日使う日用品を美しいと感じることや、通りすがりの工事現場に置かれた物たちの配置を面白いと感じることは、美術館を訪ねて、評価の定まった名作に見入ることと根はひとつです。美術や芸術と聞いて、どうかご自分で敷居を高くなさらないでください。自分自身の“見る目”にこそ、美術の価値があり喜びがあるのです。

ですから、ぜひ意識的に日常の中に美を見つけていただき、あわせてご自身の美意識にも出会っていただきたいと思います。そうすることで、日常生活は非常に豊かなものになるはずです。美を見出す力とは、感じる力であり想像する力であり、創造する力でもあります。美術も工芸もデザインも、人間が作り上げている点で変わりはないのですから。

こう考えれば「難しい」とか「わからない」と敬遠されがちな抽象絵画や現代美術も、「面白い」とか「氣に入った」という目で楽しむことができるはずです。単に「見慣れているか見慣れてないか」で、親しみを感じたり抵抗を感じたりしていることもあります。最初は抵抗を感じたものに対して、見慣れることで美しさが感じられるようになることもあるのです。

もちろん美術や芸術について学ぶことには、大きな意味があります。たとえば色の組み合わせについての知識があれば、それだけ色の見方が深くなるでしょう。しかし一方で、知識がものの見方を制限してしまうこともあります。ですから、まずは自信を持って「自分が良いと思ったものが良いもの」と思っていただければよいのです。その上で、美術展などを通じ、時を超えて残り、伝えられて来た本物を見て楽しみながら、“見る目”を養っていただければと思います。

市民の方に素材や技法をお教えしています

私は千葉県の田舎で生まれ育ちました。いつも身近な存在だった木が、小さい頃から大好きでした。木こりをしている親戚がいましたし、兄は大工です。大学で専攻したのは漆工芸で、卒業後は家具をデザインする仕事をしていました。そして現代美術に出会い、今のような作品を作るようになったのです。

今挑んでいるのは、展示会場に意図的に異質な空間を作り出し、見る人に違和感を抱かせることで“空間を支配する”表現です。ふだん見慣れた風景や、ちょっと前まで溢れるほどあったものを様々な木の素材で表現することで、あえて見る人の戸惑いを誘い、忘れがちな感覚や感情を呼び覚まそうとしているのです。もちろん私自身も、作るために対象となるものを改めて見直し作ることで、そのものがいっそう愛おしくまた理解することにもなります。

東北生活文化大学では、市民の方に大学のアトリエや工房を使って創作を体験していただく「社会人のためのワークショップ」を行っています。これは文部科学省の委託事業として、2007 年度から３年間行われた「アートな職人育成プログラム」の後を受ける形で始まったものです。今年は９月から 11 月にかけて、生活美術学科の５人の教員が指導にあたっています。

社会人のためのワークショップで行われる予定の
「カッティングボードに木象嵌」

私が担当する「カッティングボードに木象嵌（もくぞうがん）」は、テーブルで果物やチーズをカットするための小さなまな板を、別の色・木目の木片を埋め込む技法で装飾するものです。ノミなどを使いますが、まったく初めてという方も３時間もあれば仕上げることができます。どの木片を選び、どこに埋め込むかというデザインを考え、ご自分の手で加工して完成させる楽しみを、ぜひ味わっていただきたいと思っています。

また 10 月から 11 月にかけて４日間行われる「みやぎ県民大学」の開放講座では、「美の断面」と題して、生活美術学科の教員が素材や技法について語ります。私も木材についてお話をさせていただく予定です。

私たちの大学では、教員が市民の皆さんにお呼びいただいて出かけて行く「出前授業」という活動も行っています。私は今年度、「木のクラフトデザイン」「木の魅力について」という２つのテーマをお受けしています。

なお、今ご紹介したいずれも、材料費が必要な場合を除いて受講料等は無料です。私たちにとっても、学ぶ意欲をお持ちの市民の皆さんと触れ合い、お教えしながら自分たちも学ばせていただく機会は貴重だと考えています。どうぞ大学に、お氣軽にお問い合わせください。

（取材＝ 2011 年 8 月 24 日／
東北生活文化大学・造形工房 林研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ **まなびのめクイズ**

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　台木と異なる色・木目の木片を台木に埋め込む装飾技法を何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。三木弘和先生の記事もご覧ください。

応募方法
はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2011年11月30日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

「芸術」は実に幅広いものです。美術、工芸、音楽、芝居・・・、さらにそれら多くの要素を編んで表現する「総合芸術」の世界も。ミュージカルなどの舞台表現もその一つですが、長年「舞台創り」に携わってきた研究者が、東北福祉大学にいらっしゃいました。三木弘和先生に、舞台表現にたどりついたいきさつや、創作の楽しさ、おもしろさを熱く語っていただきました。

舞台創りは「究極のデザインワーク」

若者たちの目を見てミュージカルを始めた

私は最初から舞台芸術を目指していたわけではありません。1993年、40歳になる年にたまたまご縁があり、新しく開設された札幌のデザイン系高等専門学校に赴任しました。着任早々、15歳の新入生たちの輝く目を見たとき、何故か突然「この若者と学園祭でミュージカルをやりたい」とひらめいたのです。私の提案に2クラス80人のうち60人が賛同してくれて、手探りの舞台創りが始まりました。しかし私は、それまで舞台創作に一度も携わったことがなかったのです。

私は、彼らにうれしかったことや悲しかったことなど自分の過去を話してもらい、それを脚本にまとめることから始めました。勿論歌やダンスも取り入れ、全てがオリジナルであることにこだわりました。この公演は大成功を収め、3年後の1996年には、オリジナルの長篇ミュージカルを、学外の一般のお客さまにも見ていただこうとSapporo Performing Arts（現：劇団I'M（アイム））を設立しました。そして翌年、札幌に加えて神奈川、福岡でも公演を成功させ、以来16年、舞台創作が私のライフワークになりました。

10代から20代の年代が中心である「劇団I'M」のキャストやスタッフは社会人や学生が多く、全員がプロではありません。しかし「お金を払って見ていただく」プロフェッショナルであるということに軸足を置くことで、アマチュア劇団や市民劇団という枠組みを超えた、独自の成長を続けてきました。この16年間、札幌を中心に毎年北海道内各地でミュージカルを上演し、名古屋、神戸、福岡など全国でも公演を行っています。私が3年前に東北福祉大学に赴任したことが縁で、昨年3月には仙台の皆さんに初めて舞台（オリジナルミュージカル『卑弥呼』）を観ていただくことができました。この『卑弥呼』という作品には、東北福祉大学の学生をはじめとする地域の方が、キャストやスタッフとして数多く参加してくださいました。

2010年3月7日ミュージカル『卑弥呼』東北福祉大学公演より

ミュージカル等の舞台創作は“総合芸術”と言われています。出演者たちはセリフを語り、演技するだけでなく、歌を歌い、ダンスを踊ります。脚本を書く人、作曲する人、振り付けを考える人など、多くのスタッフが関わります。また大道具・小道具など、舞台美術をデザインする人や、照明や音響で腕をふるう人たちも不可欠です。今では劇中に映像制作も加わりました。

更に私たちの劇団では、チラシやポスターのデザイン、そして公演全体のプロデュースまで、外部に委ねることなく全てを自分たちで行っています。ありとあらゆるジャンルの創造表現が統合されるミュージカルの舞台は、まさに典型的なコラボレーション（共同作業）の成果だと言うことができるでしょう。

子どもたちに教わり続けた日々

私は福岡市の博多に生まれ育ちました。「どんたく」や「祇園山笠」が有名な“お祭りの町”である博多では、ノリが良い盛り上がりやすい人は「のぼせもん」と呼ばれます。もちろん私もその一人です。私は学生時代にカーデザイナーを目指し、地元の九州芸術工科大学に進学しました。この大学は芸術工学部だけの国立の単科大学で、今は九州大学に統合されています。「芸術工学」とは広い意味でのデザインを研究する学問です。当時この学部は全国でここ1つだけでしたから、全国から学生が集まってきましたし、先生方もユニークな方ばかりで、まさに熱氣に溢れる血氣盛んな大学でした。

私はプロダクトデザインコースを卒業し、本田技術研究所デザイン部に就職します。首都圏に移ったことで、熱に浮かされるように映画、美術展、そして舞台鑑賞に明け暮れました。演劇では寺山修司、つかこうへいらが活躍していた時代です。結果的にはこのとき培った目や感覚が、後に自分で劇作を行い、劇団を運営する際に大きな役割を果たすことになりました。

職場では四輪車から後に、二輪車のデザインも担当しましたが、徐々に「これが本当に自分を活かす道なのだろうか」という疑問が強烈に沸き始めました。週末にさまざまな芸術表現に触れていたこともあって、自分の興味が人間そのものに向かいつつあることを感じていたのです。そんなとき大学時代の先輩が、夫婦で子ども向けの美術教室を開いていることを知り、千葉県に訪ねて行きました。小さなアトリエでしたが、子どもたちは、喜々としてモノ創りに取り組んでいました。

その姿から発するエネルギーに圧倒された私は、何の迷いもなく会社を退職し、神奈川県の茅ケ崎市で子どものためのデザイン室を開きました。下は4歳から上は中学生までが集まり、無我夢中で作品を作っている様子は、まさに「人間の生きる原点」を見るようでした。指導しようにも、私が身につけて来た技術や経験、そしてカンなど、まるで役に立ちません。むしろ私の方が、子どもたちから大切なものを教わり続けたのです。

不思議なことに、通って来てくれる子どもたちの学校の成績が向上するという現象が起きました。私は「モノづくりで想像力を膨らませ、集中力を高め、エネルギーを燃焼させる、という経験を積み上げた結果ではないか」と考えています。

この時期、私は世界的な遊具デザイナーである和久洋三氏に出会いました。氏が代表を務める「おもちゃの科学研究会」には創設時から参加し、「人間と表現活動」について多くのことを学ばせていただきました。子どもたちとの実践と研究を通して、真の教育とは、互いに響き合い育み合う“響育”でなければならないのでは、と考えるようになりました。

何歳からでも創造で自身の可能性が開ける

新しくできる札幌の高等専門学校で、プロダクトデザインの教師を必要としているという話を大学時代の先輩からいただき、私は札幌行きを決意しました。尊敬していた建築家の故清家清氏が初代校長を務め、先進的な学校運営を行おうとしていたことにも強く興味を引かれました。

子どもたちとの世界では、人間が表現に熱中する原初的な姿に触れることができましたが、札幌高等専門学校では、卒業後に続けて学べる専攻科もできたことで、15歳から22歳という幅広い年齢層の若者たちに出会えました。就任前は「この若者たちとミュージカルをやろう」など思ってもいませんでしたが、舞台表現こそが、これまでの人生でこだわり続けて来た、創造に対する根源的で本質的な表現欲求を燃焼させるにふさわしい場所だという直感がはたらいたのかもしれません。

最初のうちは人前で自分を出すことを恥ずかしがり、他者とのコミュニケーションに危うさを感じさせる学生たちが、活動に身を入れるうちにたくましく変身した例は数知れません。中には演劇やダンスなどの分野で、プロや指導者になる者も出ています。私たちの劇団では、役者として舞台に立つだけでなく、裏方を務めるスタッフも舞台創りの議論に加わります。互いに想像力を膨らませ、共同でものを創り上げる経験をすることで、若者たちは驚くほど可能性を広げることができるのです。

私自身も舞台創作に出会ったことで、表現者として全く新しい領域に踏み込むことになりました。今では脚本や演出やデザイン監修にとどまらず、作曲にも取り組んでいます。これからも、全てをオリジナルで創り上げることの意義を大切にし、若者たちの可能性を開く場で在りたいと考えています。

総合芸術としての舞台創作は、合わせて人が育つ場でもあるという意味で、「究極のデザインワーク」だという強い信念があります。私たち芸術工学会に所属する研究者は、芸術と工学が別の概念であるとか、対立する存在であるとは考えていません。人間が全霊をかけて生み出すものを、アートと呼ぶかデザインと呼ぶかといったことはあまり大きな問題ではなく、互いに触発され、未知なる直感に出会い、新たなる創造の世界に駆り立てられることが幸せなのです。創造力とは「自分を幸せにする力」であり、私も創造的な人生を送りたいと願っている訳です。創造することで自身の可能性を開くという経験は、若者だけの特権ではありません。私が40歳を過ぎて新しい表現形式に出会ったように、何歳になっても可能です。私自身、これからの自分が「どこまで遠くに行けるのか」が楽しみでなりません。今年も市民参加型の舞台を、北海道の日高と鹿追で行います。また「劇団I'M」は来年に向け、拠点を札幌から仙台へと移す準備を進めています。今これをお読みの皆さんとも、いずれお会いできますことを、心から楽しみにしています。

（取材＝2011年8月29日／東北福祉大学一号館4階 三木研究室にて）

東北福祉大学　総合マネジメント学部 情報福祉マネジメント学科　教授
専攻＝ユニバーサルデザイン・舞台創作

三木　弘和 先生

《プロフィール》
（みき・こうわ）1951年福岡県生まれ。九州芸術工科大学（現・九州大学）芸術工学部卒業。株式会社本田技術研究所勤務、子どもデザイン室主宰を経て、1991年に札幌市立高等専門学校助教授に就任し、後に教授。1996年、札幌市でオリジナルミュージカルの舞台創作団体「劇団I'M」を設立し、主宰。2008年より現職。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　「創造力」とはどんな力であると三木先生は話している？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。林範親先生の記事もご覧ください。

応募方法
はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2011年11月30日 当日消印有効

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com

10 OCT

第６回　東北大学病院市民公開講座「お口は健康ですか？」
10月29日(土) 13:00▶15:40 無料 要申込
講　師　島内　英俊（東北大学病院教授）
場所 仙台国際センター　大ホール　備考 申込み締切 10/21
主催者 東北大学病院　問合先 TEL 022-717-7131
URL http://www.hosp.tohoku.ac.jp/release/

福祉事業の経営環境の変化と経営管理者の役割（全10回）（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
10月29日(土)～ 13:00▶18:30 有料 要申込
講　師　中熊　靖（仙台白百合女子大学）
場所 東北学院大学　土樋キャンパス５号館　３階531教室　定員 50名
主催者 学都仙台コンソーシアム・仙台白百合女子大学　問合先 TEL 022-374-4475
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

記念講演会「江戸時代の日本は『帝国』だった―ヨーロッパの見た日本―」
10月30日(日) 13:30▶15:30 無料 申込不要
講　師　平川　新（東北大学東北アジア研究センター教授）
場所 東北大学附属図書館本館　２号館４階会議室
主催者 東北大学附属図書館　問合先 TEL 022-795-5925
URL http://tul.library.tohoku.ac.jp/pub/100/

11 NOV

勝つための準備Ⅱ　怪我に勝つ（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月５日(土) 13:00▶16:30 無料 要申込
講　師　白幡　恭子（仙台大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・仙台大学　問合先 TEL 0224-55-1621
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

高齢者の財産問題―相続のイロハ（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月５日(土) 17:00▶18:30 無料 要申込
講　師　近藤　雄大（東北学院大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

臨床美術（クリニカルアート）無料体験ワークショップ
11月12日(土) 10:00▶12:00　13:30▶15:30 無料 要申込
場所 東北福祉大学　雄翔館１階　定員 各回８名
主催者 東北福祉大学社会貢献センター予防福祉健康増進推進室　問合先 TEL 022-208-7790
備考 11/19、12/3 にも開催

企画展関連講座「ここがおもしろい旧石器時代」
11月12日(土) 13:30▶15:30 有料 要申込
講　師　仙台市教育委員会文化財課職員
場所 地底の森ミュージアム　研修室　定員 60名
主催者 地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/

第18回公開講座「災害を生きる―その文化的諸相―」
11月12日(土) 14:00▶16:20 有料 要申込
講　師　柳瀬　明彦（東北大学）
場所 東北大学　川内北キャンパス　講義棟 B200 講義室　定員 100名
主催者 東北大学大学院国際文化研究科　問合先 TEL 022-795-7556
URL http://www.intcul.tohoku.ac.jp/?num=110607185005

介護保険制度の仕組みと持続可能性について―効果と効率の視点―（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月12日(土) 15:00▶16:30 無料 要申込
講　師　関田　康慶（東北大学）
場所 東北学院大学　土樋キャンパス５号館　３階531教室　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-3925
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

介護楽・楽講座（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月12日(土) 15:00▶16:30 無料 要申込
講　師　原田　光子（聖和学園短期大学）
場所 東北学院大学　土樋キャンパス５号館　２階521教室　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・聖和学園短期大学　問合先 TEL 022-376-3151
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記　「学び」イベントに行ってきました

＜多賀城跡史跡巡り＞
■ 多賀城廃寺跡コース
講師　東北歴史博物館上席主任研究員　柳沢　和明　氏
2011年６月12日（日）13:30～14:30　東北歴史博物館

昨年の「まなびのめ」で見た、多賀城跡調査50周年の記念フォーラムに出てみたかったのですが行けなかったので、今回ホームページで見つけたこのイベントに参加してみました。

コースはもうひとつ「多賀城政庁跡コース」というのがあるのですが、一番直近にあったのがこのコースでした。集合場所のエントランスホールに集まったのは、私を入れて15名でした。やはり歴史好きな方が多かったようにお見受けしました。

館で簡単な説明を受けてから外に出て、皆で坂を登り多賀城廃寺跡へ。木立を通って来る風が爽やかでした。まず中門と講堂を連結する築地塀跡から。当時、塀を乗り越えるという行為は重大な犯罪行為とされ、これを犯すと笞（ムチ）打ち60回の刑に処せられたそうです。この築地塀の中の東側に三重塔、西側に金堂が向かい合って立つのが最大の特徴で、この伽藍配置を「観世音寺式」というそうです。普通の寺院では塔と金堂が共に南を向いて配置されているので珍しいのです。いろんな研究の結果、塔は23.8 m もの高さだったと推定されています。ここに今も残る礎石――この上に柱を立てた――は創建当時のもので、1300年隔てた遺跡の上で、小学生中学年らしい男の子が３人遊んでいたのは、いかにも史都多賀城にふさわしい光景でした。時間となって館へ戻る途中、今回よく耳にした貞観11（869）年の津波のことにも触れられ、この多賀城城下も大きな被害に見舞われたことが『日本三代実録』に出ていることを聞き、改めて自然の威力に驚いた次第でした。

敷地内にある「今野家」――昔の肝煎りの屋敷を移設してきたとか――の懐かしい風情も楽しんで帰って来ると、人工池のアシ原のヨシキリが、その賑やかな声で私たち一行を出迎えてくれました。

（宮城郡利府町　足津　岬）

＜東北復興創生事業シンポジウム＞
■「復活と創造　東北の地域力」
講師　経済評論家　内橋　克人　氏　ほか
2011年６月18日（土）16:30～18:30　東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

第１部　基調講演　「人間復興を求めて　新生・東北が日本を変える」
内橋　克人　氏（経済評論家）
第２部　緊急シンポジウム　「東北再生のために、私達がすべきこと」
パネリスト　内橋　克人　氏（経済評論家）
一力　雅彦　氏（河北新報社代表取締役社長）
星宮　　望　氏（東北学院大学学長）
コーディネーター　柳井　雅也　氏（東北学院大学教養学部地域構想学科教授）

今回のシンポジウムは、東北学院大学と河北新報社が地域復興にむけて５月に連携協定を結んだことで実現しました。そしてこの日は、東日本大震災から100日目にあたり会場の礼拝堂には学生さんと一般の方を含め1,000人以上も集まりました。

基調講演で内橋氏は、現状を公的支援が不十分で国家の成すべきことが成されていないと強く訴えられました。公的支援制度は、阪神淡路大震災の時に一般の市民が立ち上がり国や政府に強く働きかけたことが、きっかけで確立されたそうです。当時、被災者を支援するための法律がまだなかったというのは初めて知り驚きました。震災の被害地域が大きいだけに公的支援をやるのであれば、やはり国をあげてやる必要があるのです。そして東北学院大学と河北新報社の連携は、地方行政ができないことを国や政府に提言していく重要な役割を担っているというのです。この地域に根ざした大学とメディアの連携は、東北地域復興再生にむけて十分に機能を発揮していくのではないでしょうか。

第２部では、河北新報社の一力社長が横軸連携性という言葉で、日本海側の県の重要性をあげられました。震災当日、河北新報社では新聞を製作するサーバーが倒れたため災害協定を結んでいる新潟日報に依頼しました。印刷工場は免震構造のため被害はなく無事に新聞を発行することが出来たそうです。緊急時の危機管理対策のありかたが問われているだけに、今後はさらに他県との連携は重要だと思いました。今回は、気仙沼市の菅原市長も参加されて最後に挨拶され、復興再生にむけて何度も覚悟をもってやると言っていたのが強いリーダーとしての決意を感じました。

最後に、第二次世界大戦で神戸空襲や阪神淡路大震災を体験した内橋氏の言葉には重みがありました。特に若い人たちに対して政治に厳しい目を向けて見るように言っていたのが強く印象に残りました。

（仙台市泉区・男性　H.M.）

読者の声

第13号に へもたくさんのお便りが届いています。ほんの一部をご紹介。

第13号　「平和」

専門家のくわしい知識が書いてあり、実生活でも大いに役立つので、ずっと取って置きたいと思う。イベントに参加するヒマもないので、このような情報誌は大歓迎です。　（仙台市宮城野区・27歳　女性）

“平和”について、このように深く突っこんで考えたことはなく、現在の日本の平和のありがたさを、あらためて感じさせられました。
（仙台市宮城野区・84歳　男性）

「学びの庭におじゃまします」は普段関心をもっていなかったTOPICに目を向ける切っ掛けとなり、「名著への旅」は自分では今まで手が届かなかった本に身近さを感じさせて頂けました。
（多賀城市・32歳　女性）

大渕先生のご解説を読んで、今まで私がずっと氣になっていた「多数の横暴」の原理がスッと理解できました。群集心理ともなんとなくニュアンスが違うし、どう言葉にすればいいのかすっきり説明できないでいました。「目からうろこ」です！　（仙台市青葉区・56歳　女性）

夏に「平和」を考える…納得です。戦後66年、現在・過去・未来を通じ、平和を考えてみたいと思います。　（石巻市・35歳　男性）

非常に読みごたえのある１冊で、フリーペーパーであることがもったいないと思いましたが、フリーペーパーであれば（あるから？）、もっとみなさんに読んでもらえるのか・・・と１人で納得してみたり。
（仙台市泉区・33歳　女性）

「まなびのめ」の色使い：襲色目（かさねのいろめ）
袷仕立て（あわせしたて）された衣服の表地と裏地の配色で平安貴族の雅な色。四季折々の変化をその様相の比喩表現によって色彩として感じ取ってきた日本人が作り上げてきた配色法。第14号・秋／「紫苑」（si-on）。

第15回　名著への旅

『清貧の思想』
中野孝次 著
文春文庫

（1996年11月10日　第1刷）

バブル経済崩壊直後に出版された本書は、当時大変によく売れたという。その理由はどうあれ、疑い無く賛辞措く能わざる良書である。当時日本に対する諸外国の関心と質問に答えるため、「日本文化の一側面」として著者が話してきたものを、より正確に、認識を深めた形で書かれたものである。

簡素にして風雅。物欲に囚われず、足るを以て知り、むしろ心の自由を尊ぶ。―― これを著者は「日本文化の精髄」とする。その生き方が思想となって伝えられてきた先人たち、光悦・長明・良寛・大雅・蕪村・兼好・芭蕉らの事例と、それに対する著者の思想とをまとめた二部構成である。

ひとつだけ紹介しておこう。甥の放蕩に対する意見を頼まれて生家に出向いた時の良寛のエピソードが実にいい。清貧の僧良寛が今なお愛される所以で、「わたしもこの口碑を軽んじない」とする著者の心意氣もまた見事である。

経済・効率・競争原理至上主義の行き着く果ては何であったのか。失われた20年の後、我々はつい最近その警鐘を聞いたばかりではなかったか。だからこそ本書の持つ意義は今再び問い直されてよいものと確信する。　（曜）

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

11 NOV

放射線と放射能を正しく理解する（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月12日(土) 17:00▶18:30 無料 要申込
講　師　菜嶋　理（東北学院大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 80名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6340
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

東北大学多元物質科学研究所 第20回素材工学研究懇談会―分離操作と高純度精製―
11月14日(月)～11月15日(火) 13:00▶20:00 有料 要申込
講　師　岡部　徹（東京大学）他
場所 東北大学　片平さくらホール　備考 15日は 9:00～12:05 まで
主催者 東北大学多元物質科学研究所　問合先 TEL 022-217-5178
URL http://www.tagen.tohoku.ac.jp/

東北大学リベラルアーツサロン　第13回「仙台藩の警察―目明し（めあかし）・徒者縛り役（いたずらものしまりやく）・手先（てさき）―」
11月18日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　吉田　正志（東北大学大学院法学研究科教授）
場所 東北大学附属図書館　1F メインフロア
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

ヒトは時間をどのように判断しているのか（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月19日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講　師　古林　俊晃（東北文化学園大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

災害ボランティア活動の現状と課題～震災後８カ月の状況をとおして～（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月19日(土) 15:00▶16:30 無料 要申込
講　師　豊田　正利（東北文化学園大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

倫理学で現代をよむ―リベラリズムの思想とどう向き合うか―（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月19日(土) 17:00▶18:30 無料 要申込
講　師　野家　伸也（東北工業大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第５期「仙台藩の暮らしを彩った工芸」
11月22日(火) 13:30▶15:00 有料 要申込
講　師　濱田　淑子（美術史家　東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館参与）
場所 大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者 「国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先 TEL 022-234-3606
URL http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

東北大学サイエンスカフェ　第74回：良い洪水と悪い洪水　～カンボジアの便益とリスク～
11月25日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　風間　聡（東北大学大学院工学研究科教授）
場所 せんだいメディアテーク　１階オープンスクエア
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-4977
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

ヒトはなぜ坐れるのか―比較形態学からみた身体運動の不思議―（学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパス公開講座）
11月26日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講　師　藤澤　宏幸（東北文化学園大学）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　６階セミナーホール　定員 60名
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学　問合先 TEL 022-233-3451
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

考古学講座「科学と考古学」
11月26日(土) 13:30▶15:30 有料 要申込
講　師　坂本　稔（国立歴史民俗博物館准教授）
場所 地底の森ミュージアム　研修室　定員 60名（中学生以上）
主催者 地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略